

DAIWAへらバトル 2015 三川フィッシュパーク

2015年11月3日（火祝）於 三川フィッシュパーク 参加者74名



前日の雨がうそのような秋晴れ。ただ寒い。三川フィッシュパークの朝は凜とした空気に包まれた。三川フィッシュパークは岐阜県海津市に位置し、木曾三川の合間に立つことが池名の由来である。池は外郭を手入れされた植栽で囲む野池スタイル。故に水深はバラエティに富み浅場から5m強の深場も多く有する。栈橋はA～Gの7本。それぞれの楽しみ方が出来る。ホスピタリティーも素晴らしい。今回はその内、水深のある5栈橋を使用した。また、伊吹おろしのお土地柄 風はつきもの。釣座は全て風を背にする座に設定した。

今回は同大会と同時に「DYFCへら」を開催し5名のジュニアがへら鮒釣りを体験した（みんなもれなく釣れていましたよ！）

まだ暗いうちに受付を済ませた選手たちは各栈橋に足早に散っていった。準備に勤しむ各選手を朝日が照らしまさに決戦前夜、神々しくもある。

7:15分競技スタート！三川FPのローカルルールに則った釣り方フリーの大会である（メーター既定）メーターセットと段底に攻め方が二分された。

スタート時は短竿 メーターセットが走る。同池は俗に働きべらといわれる9寸～尺サイズのへらが多くウキを頻繁に動かしてくれる。「浅ダナは朝のウキが動く時間にどれだけ釣込むかがポイント」とご常連が話してい

たが、つきものの風の影響で時間経過と共に浅ダナは精度が落ちるのだろう。開始3時間位からか、そよそよだった風が本領を發揮し始めた。フォローの風ではあるが浅ダナはウキを風流れて沖に持っていかれバラケが流れ食わせとシンクロしない状態になりつつある。局面判断が必要な時間帯だ。11時の一斉休憩を前にフラシ交換した選手は5名程度（10kgカット20枚目安）厳しい！

11:00 一斉休憩。一時まどろむ。竿のレンタルも開始し多くの方に試していただけた。

事務所で選手に聞いてみる午後戦略・・・「宙はもうあかんね。段床しかないな・・・」と。確かに段床組が朝いち走ったメーターセット組に肉薄している。賢明である。しかしこんな声も「皆が段床やるならワシは段床からメーターに切替えるわ」これも一理。渋っている原因は冷え込みもあるが皆同じ釣りをしていることもある。魚の口数も一人当たり少なくなるのだから。考え方はそれぞれである。渋い時ほどへら師は饒舌になる！

11:40 後半戦スタート。

明らかに底釣り組が増えた。風は強くなるばかり。これが三川FPなのだ。日陽があるので寒くはないが、東西問わず水中はここ数日の冷え込みで一気に冬支度に入ったようだ。如何に少ないアタリを大切に拾っていくかの展開になった。一発大型で大逆転というタイプの池ではないので尚更である。

釣況はさらに渋く。ただ誰もギブアップする気配もない。色々なアプローチでへらと対峙している。同池のロジに「釣れても釣り 釣れなくとも釣り」という格言が飾られてある。まさにである。

14:00 競技終了 ため息と安堵の声が木霊する。

2フラシは数名 僅差の順位となった。結果的には段床を通した選手が上位を占める。

順位表彰、続いてのお楽しみ抽選会と和やかな時間を過ごし閉幕となった。

食い渋りの中最後まで折れずに闘っていただいた選手に心より感謝いたします。

順位	氏名	フリ仮名	合計 kg
優勝	安藤嘉洋	アンドウヨシヒロ	10.65
準優勝	土屋健二	ツチヤケンジ	10.35
3位	諸岡秀樹	モロオカヒデキ	10.20
4位	鈴木千秋	スズキチアキ	8.40
4位	古橋一哲	フルハシカズノリ	8.40
6位	稲川満	イナガワミツル	8.30
7位	小坂井芳男	コザカイヨシオ	8.00
7位	大橋武士	オオハシタケシ	8.00
9位	橋本俊彦	ハシモトシヒコ	7.90
10位	広江実	ヒロエミノル	7.75
11位	黒田紀久雄	クロダキクオ	7.70
12位	大岡弘	オオオカヒロシ	7.40
13位	近藤健	コンドウタケシ	7.20
14位	小沢芳彦	オザワヨシヒコ	7.05
15位	奥村忠	オクムラタダシ	6.95
16位	富川諭	トミカワサトシ	6.85
17位	大橋謙治	オオハシケンジ	6.80
18位	伊藤政男	イトウマサオ	6.60
19位	鈴木勲	スズキイサオ	6.35
20位	松本好弘	マツモトヨシヒロ	6.25